

瀬戸中だより 12月

令和7年12月10日
発行 瀬戸中学校
校長 幸路 義文

厳しい冬こそ成長のチャンス！

12月に入り、秋晴れのスッキリした空から、薄日がさす雲の多い空へと変わってきました。暖かった秋も一気に紅葉を終えて、各地からは、雪の便りが届く季節となりました。

寒暖の差が激しい季節であるとともに、風邪になりやすい時期でもあるので、体調管理には注意したいものです。今年もインフルエンザをはじめ様々な感染症の蔓延が心配されています。これから年末年始に向けて、今まで以上に感染防止対策を十分に行い、ウイルスに負けない健康的な生活を心がけてほしいと思います。

漢詩に『寒青(かんせい)』という言葉があります。この言葉は、「風雪に耐えて青々と立つ『冬の松』」を意味します。凍てつく風雪の中で、木も草も枯れ果てているのに松だけは青々と生きている。一生のうち、どんな厳しい中にあっても、この松のように、青々と、そして生き生きとあり続けたいという思いが込められた言葉です。生徒の皆さんにとっては、学年のまとめの時期になります。どうか様々な課題や悩みを乗り越えるために、コツコツと努力を積み重ねる人であってほしいです。

〈第54回北灘まつり芸能祭に音楽部と紙芝居朗読有志が出演！〉

11月15日(土)に「北灘まつり芸能祭」(会場:北灘公民館)に音楽部が出演させていただきました。多くの参加者の前で、生徒たちは、日頃の練習の成果を発揮することができ、始めて1、2年メンバーで演奏をしました。また、住吉丸事件の紙芝居も2年生有志で朗読し、北灘地域の方に披露することができました。地域の方々との交流を通して、より地元を知ることができ、有意義な時間となりました。ありがとうございました。



〈せとの子ども食堂にボランティアスタッフとして参加〉



11月15日(土)に瀬戸公民館において、せとの子ども食堂が開催され、本校生徒がボランティアスタッフとして参加しました。当日は地域のボランティアの方々と一緒に、丁寧に配膳していました。次回開催日は、12月20日(土)です。クリスマスにちなんだゲーム大会があるので、友達同士や弟や妹がいる人は連れて来てあげてくださいね。また、ボランティアスタッフも募集しているので参加をお願いします。

〈オープンスクールおよび瀬戸中校区人権フェスティバル開催〉

11月17日(月)に、オープンスクール(明神小6年生対象)を開催しました。4月に入学予定の児童が中学校生活を事前に体験し、少しでも不安を解消することを目的の一つとしています。午前中は6年生の児童は、中学校長から「将来の自分」について様々な視点から、お話をしました。また、生徒指導担当から中学校での生活について説明があり、英語ではALTの先生と瀬戸中学校にまつわるEnglishクイズを楽しみながら英単語を学びました。

そして午後からは、児童の他に中学校全校生徒、保護者や地域の方々にも参加いただき、人権フェスティバルを開催しました。最初に明神小学校児童がRADWIMPSの「正解」をオープニングに合唱し、これから入学する中学校への期待や友達との思い出を大切にこれからも生活をしたいというメッセージが伝わりました。その後、人権学習講演会では、県内や全国各地で人権やいじめ問題の講演活動を実践している阿波市出身の大湾 昇さんをお招きし、「あることをないことにしない」と題して、児童生徒に親しみやすい内容で「偏見」や「いじめ問題」、「同和問題」について話してくださいました。

講師の大湾さんは、「知識がないために間違ったことを当たり前として思い過ごし、それを信じてしまうことが偏見につながり、差別につながっていくんだ。」ということ動物をイメージした内容でとりあげ、生徒との対話を楽しみながら話をいただきました。また、いじめを受けて不登校になった生徒が自分の講演の話をきっかけにその生徒が電話をかけてきて、生きることへの悩みを打ち明けられた時に、「生きることができている」「毎日を過ごすことができる」ことへの希望を電話で呼びかけ続け、その子が学校を卒業した今でも交流が続き、前向きに人生を送っているという話を聞きました。不登校の生徒が持っている気持ちに寄り添い、共感し、温かい声掛けで人間関係が改善されていくんだという話しが印象に残りました。

〈ようこそ先輩！北京パラ・車いすテニス藤本佳伸さん〉

11月21日(金)に、2008年北京パラリンピック男子テニスに出場した瀬戸町島田地区出身の藤本佳伸さんにお越しいただき、車いすテニスの体験と藤本さんの講演会を行いました。藤本さんは元体操選手で高校時代に鉄棒練習時に落ち、下半身不随で足の自由を奪われました。そこで体操で培った筋力を生かし、車いすテニスを始めました。本校出身でもあるので、是非、後輩たちにその経緯を聞かせたいと思い、今回の交流会となりました。生徒にはまず、スポーツ型車いすを実際に乗り、コーンをよけて思い通りに動かせることから始めましたが、藤本さんのように素早く、機敏な動きになるには、相当の腕の筋力が必要であることが分かりました。そして、硬式テニスと同じようにテニスラケットでボールを狙ったところに打ち返すという事がどれほど難しいかという事を生徒たち、先生方は体験を通して学びました。藤本さんは今後は県内のパラスポーツ協会との連携を図りながら、障がいの有無に関わらず、多くの方に車いすテニスを知ってもらいたいと思っています。

